

(様式1)

令和7年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	土に親しみ広く生物を愛し、社会の向上・発展に寄与しようとする資質と能力を養い、人間性豊かな心身ともにたくましい人間を育てる。 (1) 広く生命を尊重し、心豊かな人間の育成 (2) 勤労と責任を重んじ、社会に貢献できる人間の育成 (3) 心身ともに健康で、自主自立の精神に富んだ人間の育成	学校整理番号	32
(2) 現状と課題	・研究活動に力を入れてきたところであり、今後は地域の関係機関と連携することで研究内容の充実を図る必要がある。 ・人前で話すことを苦手とする生徒が増えているため、体験活動等によりコミュニケーション能力を育成する必要がある。 ・町内唯一の農業高校であることから、地域農業を特色を教育内容に反映させ、地域貢献を積極的に推進する必要がある。 ・多様な課題を抱える生徒が増えており、積極的に外部専門家も加えて生徒を支援する必要がある。	学校名	青森県立名久井農業高等学校
(3) 重点目標	1 「わかる授業」及び学習意欲を高める授業の実践、ICTの効果的な活用により、学習指導の充実を目指す。	全日制の課程	
	2 面接を重視した生徒理解に努め、基本的な生活習慣の確立、他人への思いやり育成など生徒指導の充実を目指す。	自己評価実施日	令和 8年 1月21日(水)
	3 インターンシップや関係企業の職場見学等により職業観・勤労観を育成し、進路の実現を目指す。	学校関係者評価実施日	令和 8年 1月29日(木)
	4 プロジェクト学習等の専門教育や農業クラブ活動、自らの身を守る(生活安全、交通安全、災害安全)の充実を目指す。	(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成	
(4) 結果の公表	・学校ホームページに掲載し公表する。	学校運営協議会委員7名 ①地域活性化事業推進者2名 ②PTA会長 ③地域有識者(町の行政)2名 ④地域農業関係者2名	

自 己 評 価				学校関係者評価		
番号	(5) 評価項目	(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) -ア 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	○指導方法の工夫等による授業改善 ○ICTの効果的利用 ○研修の充実と情報共有	○相互授業参観や研究授業を通じた授業改善 ○ICTを活用した授業の実践 ○実践的な研修の実施 ○校外研修の情報共有	○相互授業参観週間を2回、研究授業を1回実施し、授業改善を行った。 ○GoogleClassroomの活用など、ICTを授業に取り入れている教員が増加した。 ○ICT活用等の校内研修を3回実施した。 職員会議で校外研修報告を行った。	B	○教職員による指導方法の工夫及びICTの活用などにより、教育効果が高められている。 ○ほかの学校に比べて特徴的で学びが多い環境である。	○相互授業参観や研究授業の参観がしやすいように、実施日の検討及び時間割の配慮を行う。 ○校務支援システムの変更など、新たなICT環境に円滑に対応できるようにマニュアル概要版の作成等を行う。
2	○基本的な生活習慣の確立 ○特別活動、課外活動の充実 ○事故・非行の未然防止	○積極的な声かけ、定期的な学校生活状況アンケートの実施 ○アセス検査の活用 ○部活動、委員会活動の活性化 ○ボランティア活動の奨励	○教員の働きかけにより安全安心な学校環境が維持できたことで学校生活状況アンケート結果は良好だった。 ○部活動の加入率は減少した。 ○地域の祭り等のボランティアに積極的に参加する生徒が見られた。	B	○名農生の元氣な挨拶、世代やシチュエーションに関係なく等身大で対応できるコミュニケーション能力の高さに毎度感動している。 ○先生、生徒の関係性や地域とのかかわりには本当に頭が下がります。	○SNSでのトラブルが発生したことから、情報モラル教育を充実させる。 ○部活動の加入促進の取組を行う。 ○4月から自転車に交通反則通告制度が適用されるため、生徒への交通安全指導を今まで以上に徹底する。
3	○最新の進路情報の収集と教員への周知 ○キャリア教育の推進と社会人基礎力の育成 ○進路掲示板の活用	○各種進路説明会への積極的参加及び情報共有 ○外部機関との連携、外部講師の活用 ○就業体験の充実 ○進路情報に触れる機会の増加	○3年生に対して進路指導部による進路説明会や個別面談による指導助言を行い、生徒全員の進路決定を支援できた。 ○インターンシップや外部講師による進路ガイダンスの実施等により、進路意識を高揚させることができた。	B	○就職が決定した3年生の保護者から喜びと学校に対する感謝の声を聞いた。信頼される運営ができています。 ○県内就職率が高いことは地域社会への貢献である。引き続き同様の取組をお願いしたい。	○早期に進路目標を持たせることが重要であることから、1年次より学年に合った進路情報を十分に提供する。 ○進路情報への関心が高まっていない生徒が見られるため、主体的に進路情報を得ようとする態度を育成する。
4	○プロジェクト学習及び農業クラブ活動の充実 ○安全に関する取組の充実	○地域の課題や農業と工業、商業で学んだ知識と技術を生かした活動の実施 ○外部コンクールやコンテスト等への積極的参加 ○学校防災に関する取組の実施	○全国レベルのコンテストや農業クラブの全国大会で優秀な成績を収めた。 ○地域の課題について町役場から情報収集を行い、課題研究担当教員で共有した。 ○文化祭や町の防災イベントで展示を行い、防災意識を高めることができた。	A	○名農の農業クラブは、全国に名を馳せる名門クラブですので、名門にふさわしい取組の展開を期待する。 ○よりいっそう地域の活力向上と持続可能な農業への取り組みに注力していただきたい。	○プロジェクト学習のさらなる充実のため、次年度は農家の方々から地域の農業に関する課題を収集する。 ○クマの出没が増加しているため、農場での実習中に出没した場合の対応など、生徒の安全を確保する取組を徹底する。

(11) 総括 「地域との交流活動」と「研究活動」を教育活動の柱に据え、農業教育の専門性を深めるとともに、地域社会に根ざした実践的な学びを展開してきた。交流活動では、地元農家の協力を得て行う農作業支援活動や町の祭り・防災イベントへの参加、近隣市町村のこども園、小中学校、特別支援学校の園児、児童生徒を対象とした農業体験学習など、地域資源を最大限に活用した教育活動を推進した。研究活動では、「知の甲子園」と呼ばれる「Q-1」での最優秀イノベーター賞受賞や日本学校農業クラブ全国大会での優秀賞受賞など、生徒の探究心が素晴らしい実績として実を結んだ。今後の大きな課題は生徒数の減少である。例年通りに学校行事を行うことが難しくなってきたことから、内容や日程の見直しを進めていく。また、志望者の増加につながるようなPR活動の強化も行っていきたい。もう一つの課題は校則の見直しである。社会の変化を踏まえ、生徒がより安全安心で楽しく過ごせる学校になるように校則を改善していきたい。